

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

February 2022 vol.94

February						
S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

◆濃尾地震探索ドライブルート

明治24(1891)年10月28日に発生した濃尾地震は、マグニチュード8.0、内陸活断層の地震としては、日本最大の地震で、愛知県・岐阜県を中心に大きな被害をもたらしました。今月は、愛知県内の濃尾地震にまつわる碑や史跡を巡るドライブルートを紹介します。

スタートは、一宮市起堤町の**旧湊屋文右衛門邸**(地図①)です。ここは、尾張国と美濃国を隔てる木曾川を船で往来する渡船場「起の渡し」のあった場所で、湊屋文右衛門は、東海道の宮宿と中山道の垂井宿を結ぶ美濃路の宿場町、起宿に拠点を構え、木曾川を利用した船による物資の運搬によって、北陸地方などと取引を行う有力な商人でした。

濃尾地震では、起宿は壊滅的な被害を受け、宿場の建物はほとんど倒壊しますが、湊屋文右衛門邸は地震に耐え、倒れずに残りました。現存する建物では、茶店湊屋が営まれ、ライスカレーなどの食事や、お茶を楽しむことができます。ドライブ出発前の腹ごしらえにも最適です。



旧湊屋文右衛門邸

ここからはしばらく、濃尾地震にまつわる慰霊碑が残るお寺を巡ります。まずは、一宮市三条の**蓮光寺**(地図②)です。旧三条村では、濃尾地震で46名の方が亡くられており、蓮光寺には、亡くなられた方々を慰霊した震災死亡碑があります。碑は名古屋市の伊藤新五郎氏の厚意により建てられたもので、震災死亡碑の題字と、三条村で亡くなられた方の戒名が刻まれています。



震災死亡碑

次は、一宮市萩原町の**宝光寺**(地図③)です。萩原町では、濃尾地震で町内の7割以上の建物が倒壊し、62名の方が亡くられました。宝光寺には、村の復興を記念し、13回忌にあたる明治36(1903)年に建てられた震災記念碑があります。また、濃尾地震で亡くなられた方をお祀りした位牌も残されています。(通常は非公開)



震災記念碑と宝光寺の位牌

続いて、稲沢市西島町の**恵日寺**(地図④)です。恵日寺には、大きな被害が出た濃尾地震を忘れないように、という願いを込めて建立された、震災記念碑が残っています。碑文には「おそろしきなみに残りし人もなし(なみ:地震)」と地震への恐怖が記されており、悲惨な体験を後世に伝えようという意思が込められています。記念碑を建立しようと寄付金を募りながら、実現に至らなかった例もある中、後世への体験の継承の強い思いが表れています。



震災記念碑

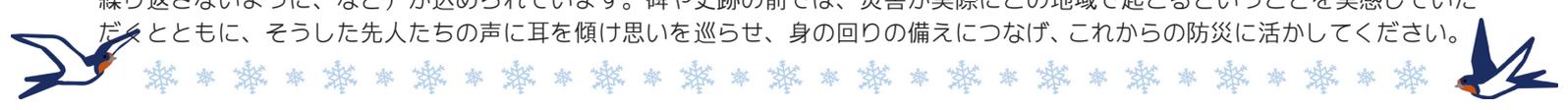
周辺にはこの他にも、一宮市丹陽町の**伝道院**に愛岐両縣震災記念碑が、本町の**地藏寺**の墓地横に震災亡霊菩薩塔があります(地図の●)。このあたりは震源からも近く、濃尾平野の地盤が軟弱な場所でもあり、残された慰霊碑や記念碑、復興碑の数々が、濃尾地震の被害の大きさを物語っています。



(左) 愛岐両縣震災記念碑 (右) 震災亡霊菩薩塔



◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い(二度と被害を繰り返さないように、など)が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたのだとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



恵日寺のあとは津島までドライブです。次は、津島市宮川町の**天王川公園**（地図⑤）です。天王川公園は、織田信長も観覧したと言われる、日本三大川祭のひとつ、尾張津島天王祭の会場となる公園です。園内には日本最大級の藤棚もあり、4月下旬から5月上旬にかけて開催される藤まつりも有名です。



天王川公園

濃尾地震では、津島市でも大きな被害が発生しており、天王川公園には、地震後に自宅を失った被災者の方々が集まって小屋掛けをして、仮住まいをしていました。公園内には、濃尾地震の惨害を記録した濃尾大地震記念碑があります。碑には、海東、海西二郡（津島を含む）における罹災の実情や、堤防や学校の復旧、救済の様子などが刻まれています。



濃尾大地震記念碑

最後は、清須市清洲の**清洲公園**（地図⑥）です。清洲城は、戦国時代に信長が拠点置き、桶狭間の戦いなどの指揮を執った場所で、秋には清洲城信長まつりが開催されま

す。桜の季節には、さくらまつりが開催され、天主閣から、川面に映る桜並木などの絶景を望むことができます。

清洲公園には、濃尾地震からの復興を記念した大地震記念碑があります。碑の建立にあたり、明治25（1892）年11月14日には、震災一周年の追悼会が催されるとともに、復興に全力を挙げてきた1年間の労苦を解き放つ、大々的な祝賀行事が行われました。



大地震記念碑

時間に余裕があれば、名古屋市内に足を運ぶと、千種区の尋盛寺の供養碑や、東区の大幸八幡社の震災記念碑など、まだまだ数多くの慰霊碑を見ることができます。



（左）尋盛寺の供養碑
（右）震災記念碑

名古屋大学減災連携研究センターの「災と Seeing」のHP(<https://www.saitoseeing2020.jp/>)では、今回のルートをたどる動画や、濃尾地震にまつわるこの他の碑や史跡の情報もご覧いただけます。碑や史跡の分布から、被害の広がりや地震の規模を実感してみてください。

★ 真清田神社節分祭

真清田神社は、国司が国の神社を参拝して回るときに、尾張の国で最初に参拝する「一の宮」です。本殿の一部には、伊勢神宮から下賜を受けた古材が使用され、国の登録有形文化財にも指定されています。

2月には神事のひとつとして、節分祭が行われます。真清田神社の節分祭では、毎年ゲストをお迎えし（2020年は紺野美佐子さん、2019年は舞の海さん）、大厄の男女20名とともに本殿でお祓いをした後、



ハローいちのみや HP より

11時から3回に分けて豆まきが行われ、境内に整えられた舞台から、参拝者に向かって福豆や福餅が投げ入れられます。（2021年、2022年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、豆まき、ゲストの招待などは中止）

あいちの農産物

はくさいは、栄養価が高いことで知られ、ビタミンC、鉄分、カルシウム、カリウムが豊富に含まれています。消化も良く、体内の余分な熱を冷ましてくれるので、健胃などにも効果があります。



JA あいち HP より

冬から春にかけて出荷の最盛期を迎え、東三河を中心に、一宮市や稲沢市などでも生産されます。硬くしまっせずしりと重みのあるもの、白い部分につやがあり切り口がみずみずしいものが、良いはくさいの目安です。

● ブレイクタイム ●

♪ 一宮市尾西歴史民俗資料館

一宮市尾西歴史民俗資料館は、美濃路起宿の歴史と文化から毛織物産業の発展や鉄道敷設など、人々の生活とともに変容する起の町を紹介する資料館です。館内には、濃尾地震にまつわる資料の展示があるほか、明治時代の起の集落の模型があり、濃尾地震の頃の様子がわかります。

起宿の脇本陣・船庄屋を務めた林家の旧宅（国登録有形文化財「旧林家住宅」）と、昭和初期に作庭された旧林氏庭園（国登録記念物）も一般公開されています。



◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 2022年2月）